

共通問題

以下の文章を読み，設問に答えよ。

米シリコンバレーの起業家であるピーター・ティールは著書『ゼロ・トゥ・ワン』（本試験の課題図書）において，人間とコンピュータとの関係について次のように語っている。

著作権法の規定により本文は非公開

ピーター・ティール(2014)『ゼロ・トゥ・ワン 君はゼロから何を生み出せるか』NHK 出版  
191-192 ページ及び 199 ページから一部引用。

ティールは、「補完関係」がうまく機能している例として，クレジットカード詐欺の防止を挙げている。膨大な数のカード取引データの中から不正取引をチェックするには，コンピュータによる自動化の方が人力作業よりも圧倒的に効率が高い。一方，詐欺師たちは不正検出プログラムでも見つかからないアルゴリズムを絶えず開発する。検出する側のコンピュータは新しいアルゴリズムの不正を見抜けないものだが，人間がチェックすれば簡単に分かることが多い。この例では，コンピュータと人間が共同で不正チェックを行い，効率と正確性の両方を追求する。このような仕組みを「補完的ビジネス」と本書では名付けている。

一方，ティールは「機械学習」や「ビッグデータ」のように，コンピュータによる膨大な情報分析を過大評価することに警鐘を鳴らしている。

（設問は裏面）

## 設 問

設問 1 今後、AI(人工知能)が社会で本格的に普及した場合、①人間が機械にとって代わられる仕事と、②以前と変わらず人間でなければならない仕事は、どのようなものが考えられるか。各々3個記載せよ。(合計最大 200 字)

設問 2 機械と人間をうまく共存させる補完的なビジネスとして、カード不正防止以外にどのようなものが考えられるか、内容を具体的に説明せよ。複数項目を記載しても構わない。(合計 300 字程度)

設問 3 解答者が、アントレプレナーとして AI, ロボット, 人間が共存共栄するビジネスを作る場合、今後どのような①能力, ②行動が必要か、各々箇条書きで記載せよ。(合計 300 字程度)

以上